

# テナント従業員にAED講習

## 豊田市駅前コモ・スクエア

豊田市駅前の複合商業施設「コモ・スクエア」(喜多町)で7日、応急手当講習が開かれ、受講したテナントの従業員ら約50人が熱心に取り組んだ。市消防署員らを講師に胸骨圧迫(心臓マッサージ)とAED(自動体外式除細動器)の取扱いを学び実践。同館では年間2回の消防訓練を行っているが、さらに初となる特別講習を開いた。

国内では年間7万人以上の方が心臓突然死しており、AEDを迅速に使用すれば助けられた命が少なくない。傍にいる人が緊急に救命措置をすることで救命率を上げられると



心臓マッサージの実践講習を受ける参加者ら=7日、豊田・喜多町で

いう。AED使用が1分遅れるごとに救命率が10%低下するため、5分以内に電気ショックを与えて、現在市内では年間約3万人がAEDの講習

ることを目標とする。AED使用を躊躇する時間ではなく、誰もが使えるようにすることが喫緊の課題で、現在市内では年間約3万人がAEDの講習

を受けている。

コモイベント広場では起震車「防サイ君」による地震体験が同時開催され、周辺の地域住民も含め約100人が参加した。2016年4月の熊本地震を再現した震度7の激しい揺れを体感した体験者の多くが、想像以上の恐怖を感じた。

参加したホテルトヨタキャッスルの営業統括部宴会課支配人の成瀬翔さん(38)は「宴会や催事中に倒れた人がいれば1番に動けるようにしなければと思っていたのでいい機会だった。地震の揺れを経験することでいかにお客さまを安全に避難誘導するかを改めて考えた」と話した。

同館ではAEDを4台設置。エントランスには災害備蓄スタンド「BI STA(ビスタ)」も設けるなど防災意識を高めている。同施設統括防火・防災管理者の中村礼二

さんは「能登半島地震を受け、安心安全に利用してもらえるよう対策が急がれる。今後も訓練や講座を通じ危機意識を高めていく」と話している。

【高瀬千穂】